

第 1 学年、第 2 学年に「D 数量関係」領域が導入された。全学年に〔算数的活動〕という項目が新設された。

（注）は文理編集部による。学年間移動が極めて多いため、「現行」と「改訂」の関係は複雑でわかりにくい。

改 訂	現 行
<p>第 1 目 標</p> <p>算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。</p>	<p>第 1 目 標</p> <p>数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。</p>
<p>第 2 各学年の目標及び内容</p> <p>[第 1 学年] *****</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。</p> <p>(2) 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。</p> <p>(3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。</p> <p>(4) 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。 (注) (4) = 追加</p> <p>2 内 容</p> <p>A 数と計算</p> <p>(1) ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。</p> <p>ア ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べること。</p> <p>イ 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。</p> <p>ウ 数の大小や順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。</p> <p>エ 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。</p> <p>オ 2 位数の表し方について理解すること。</p> <p>カ 簡単な場合について、3 位数の表し方を知ること。 (注) 第 2 学年より一部移動</p> <p>キ 数を十を単位としてみること。 (注) 第 2 学年より一部移動</p>	<p>第 2 各学年の目標及び内容</p> <p>[第 1 学年] *****</p> <p>1 目 標</p> <p>(1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方考え、用いることができるようにする。</p> <p>(2) 具体物を用いた活動などを通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を重ね、量の大きさについての感覚を豊かにする。</p> <p>(3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を重ね、図形についての感覚を豊かにする。</p> <p>2 内 容</p> <p>A 数と式</p> <p>(1) ものの個数を数えることなどの活動を通して、数の意味について理解し、数を用いることができるようにする。</p> <p>ア 対応などの操作によって、ものの個数を比べること。</p> <p>イ 個数や順番を正しく数えたり表したりすること。</p> <p>ウ 数の大小及び順序を考えることによって、数の系列を作ったり、数直線の上に表したりすること。</p> <p>エ 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。</p> <p>オ 100 までの数について、その表し方と意味を理解すること。</p>

(2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

ア 加法及び減法が用いられる場合について知ること。

イ 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。

ウ 簡単な場合について、2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

(注) ウ = 第2学年より一部移動

B 量と測定

(1) 大きさを比較するなどの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。

ア 長さ、面積、体積を直接比べること。

(注) 「面積」「体積」=追加

イ 身の回りにあるものの大きさを単位として、その幾つ分かで大きさを比べること。

(注) イで現行の「長さ」を「大きさ」に変更

(2) 日常生活の中で時刻を読むことができるようにする。

(注) 第2学年より移動

C 図形

(1) 身の回りにあるものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。

ア ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすること。

イ 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を正しく用いて、ものの位置を言い表すこと。

D 数量関係

(注) 新設

(1) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。

(2) ものの個数を絵や図などを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。

(注) (2) = 追加

[算数的活動]

(注) 新設

(1) 内容の「A数と計算」、「B量と測定」、「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。

ア 具体物をまとめて数えたり等分したりし、それを整理して表す活動

イ 計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして表す活

(2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

ア 加法及び減法が用いられる場合について知り、それらを式で表したり、その式をよんだりすること。

イ 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。

(3) 具体的な事象について、まとめて数えたり等分したりし、それを整理して表すことができるようにする。

(注) 新では[算数的活動]へ

B 量と測定

(1) ものの長さを比較するなどの活動を通して、量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにする。

ア 長さを直接比べること。

イ 身近にあるものの長さを単位として、その幾つ分かで長さを比べること。

C 図形

(1) 身近な立体についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を豊かにする。

ア ものの形を認めたり、形の特徴をとらえたりすること。

イ 前後、左右、上下など方向や位置に関する言葉を正しく用いて、ものの位置を言い表すこと。

動

ウ 身の回りにあるものの長さ、面積、体積を直接比べたり、他のものを用いて比べたりする

活動

エ 身の回りから、いろいろな形を見付けたり、具体物を用いて形を作ったり分解したりする

活動

オ 数量についての具体的な場面を式に表したり、式を具体的な場面に結び付けたりする活動

[用語・記号]

一の位 十の位 + - =

[第2学年] *****

1 目標

- (1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方についての理解を深めるとともに、加法及び減法についての理解を深め、用いることができるようにする。また、乗法の意味について理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 具体物を用いた活動などを通して、長さや体積などの単位と測定について理解できるようにし、量の大きさについての感覚を豊かにする。
- (3) 具体物を用いた活動などを通して、三角形や四角形などの図形について理解できるようにし、図形についての感覚を豊かにする。
- (4) 具体物を用いた活動などを通して、数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。 **(注) (4) = 追加**

2 内容

A 数と計算

- (1) 数の意味や表し方について理解し、数を用いる能力を伸ばす。
 - ア 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり、分類して数えたりすること。
 - イ 4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。
 - ウ 数を十や百を単位としてみるなど、数の相対的な大きさについて理解すること。
 - エ 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。
 - オ 1/2、1/4など簡単な分数について知ること。 **(注) 第4学年より一部移動**
- (2) 加法及び減法についての理解を深め、それらを用いる能力を伸ばす。

[用語・記号]

一のくらい 十のくらい + - =

[第2学年] *****

1 目標

- (1) 具体物を用いた活動などを通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方についての理解を深めるとともに、加法及び減法についての理解を深め、用いることができるようにする。また、乗法の意味について理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 具体物を用いた活動などを通して、長さの単位や測定について理解できるようにし、量の大きさについての感覚を豊かにする。
- (3) 具体物を用いた活動などを通して、図形についての理解の基礎となる経験を一層重ね、図形についての感覚を豊かにする。

2 内容

A 数と計算

- (1) 数の意味や表し方について理解し、数を用いる能力を伸ばす。
 - ア 同じ大きさの集まりにまとめて数えたり、分類して数えたりすること。
 - イ 4位数までについて、十進位取り記数法による数の表し方及び数の大小や順序について理解すること。 **(注) 一部が第1学年へ移動**
 - ウ 数を十を単位としてみたり百を単位としてみたりするなど、数の相対的な大きさについて理解すること。 **(注) 一部が第1学年へ移動**
 - エ 一つの数をほかの数の積としてみるなど、ほかの数と関係付けてみること。
 - オ 簡単な事柄を分類整理し、それを数を用いて表したり、表やグラフの形にしたりすること。
- (2) 加法及び減法についての理解を深め、それらを用いる能力を伸ばす。
 - ア 加法と減法の相互関係について理解すること。 **(注) 新では「D数量関係」に移動**

ア 2位数の加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

イ 簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

(注)イ = 第3学年より移動

ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

(3) 乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

ア 乗法が用いられる場合について知ること。

イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ、それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

ウ 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。

エ 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えること。

(注)エ = 第3学年より移動

B 量と測定

(1) 長さについて単位と測定の意味を理解し、長さの測定ができるようにする。

ア 長さの単位(ミリメートル(mm)、センチメートル(cm)、メートル(m))について知ること。

(2) 体積について単位と測定の意味を理解し、体積の測定ができるようにする。

(注)(2) = 第3学年より移動

ア 体積の単位(ミリリットル(ml)、デシリットル(dl)、リットル(l))について知ること。

(注)ア = 第3学年より移動。「ミリリットル」「デシリットル」=追加

(3) 時間について理解し、それをを用いることができるようにする。 (注) 第3学年より移動

ア 日、時、分について知り、それらの関係を理解すること。 (注) 第3学年より移動

C 図形

(1) ものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素に着目し、図形について理解できるようにする。

ア 三角形、四角形について知ること。

イ 正方形、長方形、直角三角形について知ること。 (注) 第3学年より移動

ウ 箱の形をしたものについて知ること。 (注) 第3学年より移動

D 数量関係

(注) 新設

イ 2位数までの加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。 (注) 一部が第1学年へ移動

ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

(3) 乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

ア 乗法が用いられる場合について知り、それを式で表したり、その式をよんだりすること。

イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質を調べ、それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

ウ 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。

B 量と測定

(1) 長さについて理解し、簡単な場合について、長さの測定ができるようにする。

ア 長さについて単位と測定の意味を理解すること。

イ 長さの単位(ミリメートル(mm)、センチメートル(cm)及びメートル(m))について知ること。

(2) 日常生活の中で時刻をよむことができるようにする。

(注) 第1学年へ移動

C 図形

(1) ものの形についての観察や構成などの活動を通して、図形についての理解の基礎となる経験を一層豊かにする。

ア いろいろな形を作ったり分解したりすること。 (注) 第1学年[算数的活動]エに移動

イ 三角形、四角形などについて知り、それらをかいたり作ったりすること。

- (1) 加法と減法の相互関係について理解し、式を用いて説明できるようにする。
- (2) 乗法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。
- (3) 身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができるようにする。

[算数的活動]

(注) 新設

- (1) 内容の「A数と計算」、「B量と測定」、「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。
 - ア 身の回りから整数が使われている場面を見付ける活動
 - イ 乗法九九の表を構成したり観察したりして、計算の性質やきまりを見付ける活動
 - ウ 身の回りにあるものの長さや体積について、およその見当を付けたり、単位を用いて測定したりする活動
 - エ 正方形、長方形、直角三角形をかいたり、作ったり、それらで平面を敷き詰めたりする活動
 - オ 加法と減法の相互関係を図や式に表し、説明する活動

[用語・記号]

単位 直線 直角 頂点 辺 面 × > <

(注) 直角、頂点、辺、面、<、>は追加。「直角」は第3学年より移動

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、1万についても取り扱うものとする。 **(注) 追加**
- (2) 内容の「A数と計算」の(2)及び「D数量関係」の(1)については、必要な場合には、()やなどを用いることができる。
- (3) 内容の「A数と計算」の(2)のウについては、交換法則や結合法則を取り扱うものとする。
- (4) 内容の「A数と計算」の(3)のイについては、乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則を取り扱うものとする。

[第3学年] *****

1 目標

- (1) 加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに、乗法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、除法の意味について理解し、その計算の仕方を

[用語・記号]

たんい 直線 ×

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(2)については、必要な場合には、()やなどを用いることができる。
- (2) 内容の「A数と計算」の(2)のウについては、交換法則や結合法則、加法と減法の相互関係を取り扱うものとする。
- (3) 内容の「A数と計算」の(3)については、(1)及び(2)の理解の基礎の上に立って取り扱うものとする。
- (4) 内容の「A数と計算」の(3)のイについては、乗数が1ずつ増えるときの積の増え方や交換法則を取り扱うものとする。

[第3学年] *****

1 目標

- (1) 加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに、乗法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、除法の意味について理解し、その計算の仕方を

考え、用いることができるようにする。さらに、小数及び分数の意味や表し方について理解できるようにする。

(2) 長さ、重さ及び時間の単位と測定について理解できるようにする。

(3) 図形を構成する要素に着目して、二等辺三角形や正三角形などの図形について理解できるようにする。

(4) 数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり読み取ったりすることができるようにする。

2 内容

A 数と計算

(1) 整数の表し方についての理解を深め、数を用いる能力を伸ばす。

ア 万の単位について知ること。

イ 10倍、100倍、 $1/10$ の大きさの数及びその表し方について知ること。

(注) $1/10$ は第4学年より移動

ウ 数の相対的な大きさについての理解を深めること。

(2) 加法及び減法の計算が確実にできるようにし、それらを適切に用いる能力を伸ばす。

ア 3位数や4位数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算が2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

(注) 「4位数」=追加

イ 加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。

ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

(3) 乗法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。

ア 2位数や3位数に1位数や2位数をかける乗法の計算の仕方を考え、それらの計算が乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。

イ 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。

ウ 乗法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

(4) 除法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。

ア 除法が用いられる場合について知ること。また、余りについて知ること。

イ 除法と乗法や減法との関係について理解すること。

考え、用いることができるようにする。

(2) かさ、重さや時間などの単位や測定について理解できるようにする。

(注) 「かさ」は第2学年へ移動

(3) 図形を構成する要素に着目して、基本的な図形について理解できるようにする。

(4) 資料を整理して表やグラフに表したり用いたりすることができるようにし、それらの有用さが分かるようにする。

2 内容

A 数と計算

(1) 数の表し方についての理解を深め、数を用いる能力を伸ばす。

ア 万の単位について知ること。

イ 10倍、100倍したり10で割ったりした大きさの数及びその表し方について知ること。

ウ 数の相対的な大きさについての理解を深めること。

(2) 加法及び減法の計算が確実にできるようにし、それらを適切に用いる能力を伸ばす。

ア 3位数の加法及び減法の計算の仕方考え、それらの計算が2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

(注) 一部が第2学年に移動

イ 加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。

ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

(3) 乗法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。

ア 2位数や3位数に1位数をかけたり、2位数に2位数をかけたりする乗法の計算の仕方考え、それらの計算が乗法九九などの基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。

(注) 一部が第2学年に移動

イ 乗法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。

ウ 乗法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

(4) 除法の意味について理解し、それを用いることができるようにする。

ア 除法が用いられる場合について知り、それを式で表したり、その式をよんだりすること。また、余りの意味について理解すること。

イ 除法と乗法や減法との関係について理解すること。

ウ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。

エ 簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えること。

(注) エ = 第4学年より移動

(5) 小数の意味や表し方について理解できるようにする。

(注) 第4学年より移動

ア 端数部分の大きさを表すのに小数を用いること。また、小数の表し方及び1/10の位について知ること

(注) 第4学年より移動

イ 1/10の位までの小数の加法及び減法の意味について理解し、計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

(注) 第4学年より移動

(6) 分数の意味や表し方について理解できるようにする。

(注) 第4学年より移動

ア 等分してできる部分の大きさや端数部分の大きさを表すのに分数を用いること。また、分数の表し方について知ること。

(注) 第4学年より移動

イ 分数は、単位分数の幾つ分かで表せることを知ること。

(注) 第4学年より移動

ウ 簡単な場合について、分数の加法及び減法の意味について理解し、計算の仕方を考えること。

(注) 第5学年より移動

(7) そろばんによる数の表し方について知り、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにする。

ア そろばんによる数の表し方について知ること。

イ 加法及び減法の計算の仕方について知ること。

B 量と測定

(1) 長さについての理解を深めるとともに、重さについて単位と測定の意味を理解し、重さの測定ができるようにする。

ア 長さの単位(キロメートル(km))について知ること。

イ 重さの単位(グラム(g)、キログラム(kg))について知ること。

(注) 「キログラム」=追加

(2) 長さや重さについて、およその見当を付けたり、目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定したりできるようにする。

(3) 時間について理解できるようにする。

ア 秒について知ること。

イ 日常生活の中で必要となる時刻や時間を求めること。

ウ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできること。

(5) そろばんによる数の表し方について知り、そろばんを用いて簡単な加法及び減法の計算ができるようにする。

ア そろばんによる数の表し方について知ること。

イ 加法及び減法の計算の仕方について知ること。

B 量と測定

(1) 長さ、かさ、重さについて理解し、簡単な場合について、それらの測定ができるようにする。

(注) 「かさ」は第2学年へ移動

ア 長さの単位(キロメートル(km))について知ること。

イ 長さ、重さについて単位と測定の意味を理解すること。(グラム(g)、キログラム(kg))について知ること。

(注) 「かさ」は第2学年へ移動

ウ かさの単位(リットル(l))について知ること。

(注) 第2学年に移動

エ 重さの単位(グラム(g))について知ること。

(2) 長さなどについて、およその見当を付けたり、目的に応じて単位や計器を適切に選んで測定したりできるようにする。

(3) 時間について理解できるようにする。

(注) 第2学年に移動

ア 日、時、分及び秒について知り、それらの関係を理解すること。

(注) 第2学年に移動。「秒」は第3学年に残る。

イ 簡単な場合について、必要な時刻や時間を求めること。

C 図形

- (1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、図形を構成する要素に着目し、図形について理解できるようにする。 (注) 第4学年より移動
- ア 二等辺三角形、正三角形について知ること。 (注) 第4学年より移動
- イ 角について知ること。 (注) 第4学年より移動
- ウ 円、球について知ること。また、それらの中心、半径、直径について知ること。 (注)ウ = 第4学年より移動

D 数量関係

- (1) 除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができるようにする。 (注) (1) = 追加
- (2) 数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。 (注) (2) = 追加
- ア 数量の関係を式に表したり、式と図を関連付けたりすること。 (注) 追加
- イ 数量を などを用いて表し、その関係を式に表したり、などに数を当てはめて調べたりすること。 (注) 追加
- (3) 資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができるようにする。
- ア 棒グラフの読み方やかき方について知ること。

[算数的活動]

(注) 新設

- (1) 内容の「A数と計算」、「B量と測定」、「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。
- ア 整数、小数及び分数についての計算の意味や計算の仕方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動
- イ 小数や分数を具体物、図、数直線を用いて表し、大きさを比べる活動
- ウ 長さ、体積、重さそれぞれについて単位の間隔を調べる活動

C 図形

- (1) ものの形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な図形について理解できるようにする。 (注) 第2学年へ移動
- ア 箱の形をしたものを観察したり作ったりすることを通して、図形を構成する要素について知ること。 (注) 第2学年へ移動
- イ 図形を構成する要素に着目して、正方形、長方形、直角三角形について知り、それらをかいたり、作ったり、平面上で敷き詰めたりすること。 (注) 第2学年へ移動

D 数量関係

- (1) 資料を表やグラフで分かりやすく表したり、それらをよんだりすることができるようにする。
- ア 日時、場所などの簡単な観点から分類したり、整理して表にまとめたりすること。 (注) ア = [算数的活動]にへ
- イ 棒グラフのよみ方及びかき方について知ること。

- エ 二等辺三角形や正三角形を定規とコンパスを用いて作図する活動
- オ 日時や場所などの観点から資料を分類整理し、表を用いて表す活動

[用語・記号]

等号 不等号 小数点 1/10 の位 数直線 分母 分子 ÷

(注) 不等号、小数点、1/10 の位、数直線、分母、分子は追加

(注) 小数点、数直線、分母、分子は第4学年より移動

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、1億についても取り扱うものとする。
(注) 「1億」=第4学年より移動
- (2) 内容の「A数と計算」の(2)及び(3)については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。
- (3) 内容の「A数と計算」の(2)のウについては、交換法則や結合法則を取り扱うものとする。
- (4) 内容の「A数と計算」の(3)については、乗数又は被乗数が0の場合の計算について取り扱うものとする。
- (5) 内容の「A数と計算」の(3)のウについては、交換法則、結合法則や分配法則を取り扱うものとする。
- (6) 内容の「A数と計算」の(5)及び(6)については、小数の0.1と分数の1/10などを数直線を用いて関連付けて取り扱うものとする。
(注) 追加
- (7) 内容の「B量と測定」の(1)のイについては、トン(t)の単位についても触れるものとする。
(注) 「トン」=追加

[第4学年] *****

1 目標

- (1) 除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方についての理解を深め、小数及び分数についての加法及び減法の意味を理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。さらに、概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。
(注) 「概数」=第4学年より移動
- (2) 面積の単位と測定について理解し、図形の面積を求めることができるようにするとともに、

[用語・記号]

等号 直角 ÷

(注) 直角は第2学年に移動

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(2)及び(3)については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また、暗算を筆算や見積りに生かすよう配慮するものとする。
- (2) 内容の「A数と計算」の(2)のウについては、交換法則や結合法則、加法と減法の相互関係を取り扱うものとする。
- (3) 内容の「A数と計算」の(3)については、乗数又は被乗数が0の場合の計算について取り扱うものとする。
- (4) 内容の「A数と計算」の(3)のウについては、交換法則、結合法則や分配法則を取り扱うものとする。
- (5) 内容の「B量と測定」の(1)のウについては、ミリリットル(ml)及びデシリットル(dl)の単位についても簡単に扱うものとする。
(注) 第2学年に移動
- (6) 内容の「B量と測定」の(1)のエについては、キログラム(kg)の単位についても簡単に扱うものとする。

[第4学年] *****

1 目標

- (1) 除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにする。
- (2) 面積の意味について理解し、簡単な平面図形の面積を求めることができるようにするとともに、

角の大きさの単位について理解できるようにする。

- (3) 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、平行四辺形やひし形などの平面図形及び直方体などの立体図形について理解できるようにする。
- (4) 数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり調べたりすることができるようにする。

2 内容

A 数と計算

- (1) 整数が十進位取り記数法によって表されていることについての理解を深める。
ア 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についてまとめること。
- (2) 概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。
ア 概数が用いられる場合について知ること。
イ 四捨五入について知ること。
ウ 目的に応じて四則計算の結果の見積りをする。 (注) 第5学年、第6学年より移動
- (3) 整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。
ア 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算の仕方を考え、それらの計算が基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。
イ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。
ウ 除法について、被除数、除数、商及び余りの間の関係を調べ、次の式にまとめること。
$$(\text{被除数}) = (\text{除数}) \times (\text{商}) + (\text{余り})$$

エ 除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。
- (4) 整数の計算の能力を定着させ、それをを用いる能力を伸ばす。 (注) 追加
- (5) 小数とその加法及び減法についての理解を深めるとともに、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。 (注) 乗法、除法 = 第5学年より移動
- ア 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。
イ 小数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。
ウ 乗数や除数が整数である場合の小数の乗法及び除法の計算の仕方考え、それらの計算が

に、角の大きさの意味について理解できるようにする。

- (3) 図形を構成する要素に着目して、基本的な図形についての理解深めることができるようにする。
- (4) 数量やその関係を式やグラフを用いて表したり考察したりすることができるようにするとともに、目的に応じて依存関係を調べたり分類整理したりすることができるようにする。

2 内容

A 数と計算

- (1) 整数が十進位取り記数法によって表されていることについての理解一層を深める。
ア 億、兆の単位について知り、十進位取り記数法についてまとめること。
- (2) 概数について理解し、目的に応じて用いることができるようにする。
ア 概数が用いられる場合について知ること。
イ 四捨五入について理解すること。
- (3) 整数の除法についての理解を深め、その計算が確実にできるようにし、それを適切に用いる能力を伸ばす。
ア 除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算の仕方考え、それらの計算が基本的な計算を基にしてできることを理解すること。また、その筆算の仕方について理解すること。 (注) 一部が第3学年に移動
イ 除法の計算が確実にでき、それを適切に用いること。
ウ 除法について、被除数、除数、商及び余りの間の関係を調べ、次の式にまとめること。
$$(\text{被除数}) = (\text{除数}) \times (\text{商}) + (\text{余り})$$

エ 除法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。
- (4) 小数の意味とその表し方について理解するとともに、小数の加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。 (注) 第3学年に移動
ア 端数部分の大きさを表すのに小数を用いること。また、小数の表し方及び1/10の位について知ること。 (注) 第3学年に移動
イ 小数が整数と同じ仕組みで表されていることを知るとともに、数の相対的な大きさについての理解を深めること。
ウ 1/10の位までの小数の加法及び減法の計算の仕方考え、それらの計算ができること。 (注)ウ = 第3学年に移動

できること。

(注) 第5学年より移動

- (6) 分数についての理解を深めるとともに、同分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

(注) 第5学年より移動

ア 簡単な場合について、大きさの等しい分数があることに着目すること。

(注)ア = 第5学年より移動

イ 同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

(注)イ = 第5学年より移動

- (7) そろばんを用いて、加法及び減法の計算ができるようにする。

(注) 追加

B 量と測定

- (1) 面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにする。

ア 面積の単位（平方センチメートル（ cm^2 ）、平方メートル（ m^2 ）、平方キロメートル（ km^2 ）について知ること。

イ 正方形及び長方形の面積の求め方を考えること。

- (2) 角の大きさについて単位と測定の意味を理解し、角の大きさの測定ができるようにする。

ア 角の大きさを回転の大きさとしてとらえること。

イ 角の大きさの単位（度（ $^\circ$ ））について知ること。

C 図形

- (1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目し、図形についての理解を深める。

ア 直線の平行や垂直の関係について理解すること。

(注) 第5学年より移動

イ 平行四辺形、ひし形、台形について知ること。

(注) 第5学年より移動

- (5) 分数の意味とその表し方について理解できるようにする。

(注) 第3学年に移動

ア 端数部分の大きさや等分してできる部分の大きさなどを表すのに分数を用いること。また、分数の表し方について知ること。

(注) 第3学年に移動、一部は第2学年に移動

イ 分数は単位分数の幾つ分かで表せることを知ること。

(注) 第3学年に移動

B 量と測定

- (1) 面積について単位と測定の意味を理解し、面積を計算によって求めることができるようにする。

ア 面積について単位と測定の意味を理解すること。

イ 面積の単位（平方センチメートル（ cm^2 ））について知ること。

ウ 正方形及び長方形の面積の求め方を考え、それらを用いること。

- (2) 角の大きさについて理解し、それを測定することができるようにする。

ア 角の大きさを回転の大きさとしてとらえ、その単位と測定の意味について理解すること。

イ 角の大きさの単位（度（ $^\circ$ ））について知ること

C 図形

- (1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な図形についての理解を深める。

ア 図形を構成する要素に着目して、二等辺三角形、正三角形について知り、それらをかいたり、作ったり、平面上で敷き詰めたりすること。

(注) 第3学年に移動

イ 基本的な図形と関連して角について知ること。

(注) 第3学年に移動

ウ 円について中心、直径及び半径を知り、円をかいたり作ったりすること。また、円に関連して球についても直径などを知ること。

(注) 第3学年に移動

(2) 図形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形について理解できるようにする。

(注) (2) = 第6学年より移動

ア 立方体、直方体について知ること。

(注) 第6学年より移動

イ 直方体に関連して、直線や平面の平行や垂直の関係について理解すること。

(注)イ = 第6学年より移動

(3) ものの位置の表し方について理解できるようにする。

(注) 追加

D 数量関係

(1) 伴って変わる二つの数量の関係を表したり調べたりすることができるようにする。

ア 変化の様子を折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。

(2) 数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができるようにする。

ア 四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算すること。

イ 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。

ウ 数量を、などを用いて表し、その関係を式に表したり、などに数を当てはめて調べたりすること。

(注) 追加

(3) 四則に関して成り立つ性質についての理解を深める。

(注) 第5学年より移動

ア 交換法則、結合法則、分配法則についてまとめること。

(注) 第5学年より移動

(4) 目的に応じて資料を集めて分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。

ア 資料を二つの観点から分類整理して特徴を調べること。

イ 折れ線グラフの読み方やかき方について知ること。

[算数的活動]

(注) 新設

(1) 内容の「A数と計算」、「B量と測定」、「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。

ア 目的に応じて計算の結果の見積りをし、計算の仕方や結果について適切に判断する活動

イ 長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動

ウ 身の回りにあるものの面積を実際に測定する活動

エ 平行四辺形、ひし形、台形で平面を敷き詰めて、図形の性質を調べる活動

オ 身の回りから、伴って変わる二つの数量を見付け、数量の関係を表やグラフを用いて表し、

D 数量関係

(1) 伴って変わる二つの数量について、それらの関係を表したり調べたりすることができるようにする。

ア 簡単な場合について、対応させる数量を考えたり、値の組を表などに表したりして関係を調べること。

(注) [算数的活動]へ

イ 変化の様子を折れ線グラフに表したり、それから変化の特徴をよみとったりすること。

(2) 数量の関係を式で簡潔に表したり、それをよんだりすることができるようにする。

ア 四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算すること。

イ 公式についての考え方を理解し、公式を用いること。

(3) 目的に応じて資料を集め、分類整理したり、特徴を調べたりすることができるようにする。

ア 二つの事柄に関して起こる場合について調べること。

イ 資料の落ちや重なりについて調べること。

(注) 「3内容の取扱い」へ

ウ 資料を折れ線グラフに表したり、グラフから特徴や傾向をしらべたりすること。

調べる活動

[用語・記号]

和 差 積 商 以上 以下 未満 真分数 仮分数 帯分数 平行 垂直 対角線 平面

(注) 以上、以下、未満、平行、垂直、対角線、平面 = 追加

(注) 平行、垂直、対角線 = 第5学年より移動

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、大きな数を表す際に、3桁ごとに区切りを用いる場合があることに触れるものとする。
- (2) 内容の「A数と計算」の(2)のウ、(3)、(4)については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。また、暗算を筆算や見積りに生かすよう配慮するものとする。
- (3) 内容の「A数と計算」の(3)のエについては、除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数で割っても商は変わらないという性質を取り扱うものとする。
- (4) 内容の「A数と計算」の(5)については、整数を整数で割って商が小数になる場合も含めるものとする。
- (5) 内容の「B量と測定」の(1)のアについては、アール(a)、ヘクタール(ha)の単位についても触れるものとする。
(注) アール、ヘクタール = 追加
- (6) 内容の「C図形」の(2)のアについては、見取図や展開図をかくことを取り扱うものとする。
- (7) 内容の「D数量関係」の(4)のアについては、資料を調べるときに、落ちや重なりがないようにすることを取り扱うものとする。

[第5学年] *****

1 目標

- (1) 整数の性質についての理解を深める。また、小数の乗法及び除法や分数の加法及び減法の意味についての理解を深め、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 三角形や平行四辺形などの面積及び直方体などの体積を求めることができるようにする。また、測定値の平均及び異種の二つの量の割合について理解できるようにする。
- (3) 平面図形についての理解を深めるとともに、角柱などの立体図形について理解できるようにする。
- (4) 数量の関係を考察するとともに、百分率や円グラフなどを用いて資料の特徴を調べることが

[用語・記号]

和 差 積 商 整数 数直線 小数点 分母 分子 帯分数 真分数 仮分数

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、大きな数を表す際に、3桁ごとに区切りを用いる場合があることに触れるものとする。
- (2) 内容の「A数と計算」の(3)については、簡単な計算は暗算でできるよう配慮するものとする。
- (3) 内容の「A数と計算」の(3)のエについては、除数及び被除数に同じ数をかけても、同じ数で割っても商は変わらないという性質を取り扱うものとする。
- (4) 内容の「B量と測定」の(1)のイについては、平方メートル(m²)及び平方キロメートル(km²)の単位についても簡単に取り扱うものとする。

[第5学年] *****

1 目標

- (1) 小数及び分数の意味や表し方についての理解を深める。また、小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにするとともに、分数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 面積の求め方についての理解を深めるとともに、基本的な平面図形の面積を求めることができるようにする。
- (3) 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、基本的な平面図形についての理解を一層深めることができるようにする。
- (4) 百分率や円グラフを用いるなど、統計的に考察することができるようにするとともに、数量

できるようにする。

2 内 容

A 数と計算

(1) 整数の性質についての理解を深める。

ア 整数は、観点を決めると偶数、奇数に類別されることを知ること。

イ 約数、倍数について知ること。

(注) 第6学年より移動

(2) 記数法の考えを通して整数及び小数についての理解を深め、それを計算などに有効に用いることができるようにする。

ア 10倍、100倍、 $1/10$ 、 $1/100$ などの大きさの数をつくり、それらの関係を調べること。

(3) 小数の乗法及び除法の意味についての理解を深め、それらを用いることができるようにする。

ア 乗数や除数が整数である場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。

イ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。

ウ 小数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。

(注) 追加

(4) 分数についての理解を深めるとともに、異分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

(注) 「同分母」から「異分母」に高度化

ア 整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。

イ 整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。

ウ 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。

(注) 第6学年より移動

エ 分数の相等及び大小について考え、大小の比べ方をまとめること。

(注)エ = 第6学年より移動

オ 異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

(注)オ = 第6学年より移動

カ 乗数や除数が整数である場合の分数の乗法及び除法の意味について理解し、計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

(注) 第6学年より移動

の関係を式で表したり、式をよんだり、その関係を調べたりすることができるようにする。

2 内 容

A 数と計算

(1) 整数の性質についての理解を深める。

ア 整数は、観点を決めると偶数、奇数に類別されることを知ること。

(2) 記数法の考えを通して整数及び小数についての理解を深め、それを計算などに有効に用いることができるようにする。

ア 10倍、100倍、 $1/10$ 、 $1/100$ などの大きさの数をつくり、それらの関係を調べること。

(3) 小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。

ア 乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。

(注) ア = 第4学年に移動

イ 乗数や除数が整数の場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。

ウ 小数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。

(4) 分数についての理解を深めるとともに、同分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。

(注) 第4学年に移動、一部が第3学年に移動

ア 簡単な場合について、大きさの等しい分数があることに着目すること。

(注) ア = 第4学年に移動

イ 整数及び小数を分数の形に直したり、分数を小数で表したりすること。

ウ 整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解すること。

エ 同分母の分数の加法及び減法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

(注) エ = 第4学年に移動

(5) 概数についての理解を深める。

(注) 第4学年へ移動

ア 目的に応じて、和、差を概数で見積もることができること。

(注) 第4学年へ移動

B 量と測定

(1) 図形の面積を計算によって求めることができるようにする。

ア 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を考えること。

(注) ひし形の面積、台形の面積 = 追加

(2) 体積について単位と測定の意味を理解し、体積を計算によって求めることができるようにする。

(注) 第6学年より移動

ア 体積の単位(立法センチメートル(cm^3)、立法メートル(m^3))について知ること。

(注)ア = 第6学年より移動

イ 立方体及び直方体の体積の求め方を考えること。

(注) 第6学年より移動

(3) 量の大きさの測定値について理解できるようにする。

(注) 追加

ア 測定値の平均について知ること。

(注) 追加

(4) 異種の二つの量の割合としてとらえられる数量について、その比べ方や表し方を理解できるようにする。

(注) 第6学年より移動

ア 単位量当たりの大きさについて知ること。

(注) 第6学年より移動

C 図形

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形についての理解を深める。

ア 多角形や正多角形について知ること。

(注) 追加

イ 図形の合同について理解すること。

(注) 追加

ウ 図形の性質を見だし、それを用いて図形を調べたり構成したりすること。

エ 円周率について理解すること。

(2) 図形についての観察や構成などの活動を通して、立体図形について理解できるようにする。

ア 角柱や円柱について知ること。

(注) 第6学年より移動

D 数量関係

(1) 表を用いて、伴って変わる二つの数量の関係を考察できるようにする。

ア 簡単な場合について、比例の関係があることを知ること。

(注) 第6学年より移動

(2) 数量の関係を表す式についての理解を深め、簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応や変わり方に着目できるようにする。

(注) 現行(4)より

B 量と測定

(1) 基本的な平面図形の面積が計算で求められることの理解を深め、面積を求めることができるようにする。

ア 三角形及び平行四辺形の面積の求め方を考え、それらを用いること。

イ 円の面積の求め方を考え、それを用いること。

(注) 第6学年に移動

C 図形

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な平面図形についての理解を一層深めるとともに、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察できるようにする。

ア 直線の平行や垂直の関係について知ること。

(注) 第4学年へ移動

イ 平行四辺形、台形、ひし形について知り、それらをかいたり、作ったり、平面上で敷き詰めたりすること。

(注) 第4学年へ移動

ウ 基本的な図形の簡単な性質を見だし、それを用いて図形を調べたり構成したりすること。

エ 円周率の意味について理解すること。

D 数量関係

(3) 百分率について理解できるようにする。

(4) 目的に応じて資料を集めて分類整理し、円グラフや帯グラフを用いて表したり、特徴を調べたりすることができるようにする。

[算数的活動]

(注) 新設

(1) 内容の「A数と計算」、「B量と測定」、「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。

ア 小数についての計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図、数直線を用いて考え、説明する活動

イ 三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明する活動

ウ 合同な図形をかいたり、作ったりする活動

エ 三角形の三つの角の大きさの和が 180° になることを帰納的に考え、説明する活動

オ 目的に応じて表やグラフを選び、活用する活動

[用語・記号]

最大公約数 最小公倍数 通分 約分 底面 側面 比例 %

(注) 最大公約数、最小公倍数、通分、約分、底面、側面、比例は追加

(注) 最大公約数、最小公倍数、通分、約分、底面、側面は第6学年より

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A数と計算」の(1)については、最大公約数や最小公倍数を形式的に求めることに偏ることなく、具体的な場面に即して取り扱うものとする。また、約数を調べる過程で素数について触れるものとする。

(2) 内容の「C図形」の(1)のエについては、円周率は、3.14を用いるものとする。

(1) 四則に関して成り立つ性質についてまとめる。

(注) 第4学年に移動

ア 交換法則、結合法則や分配法則についての理解を深めること。

(注) 第4学年に移動

(2) 百分率の意味について理解し、それを用いることができるようにする。

(3) 目的に応じて資料を分類整理し、それを円グラフ、帯グラフを用いて表すことができるようにする。

(4) 簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応や変わり方に着目するなど、数量の関係の見方や調べ方についての理解を深める。

(注) 新では(2)へ

[用語・記号]

平行 垂直 対角線 %

3 内容の取扱い

(1) 内容の「A数と計算」の(3)については、整数を整数で割って商が小数になる場合も含めるものとする。

(2) 内容の「A数と計算」の(3)のウについては、 $1/10$ の位までの小数の計算を取り扱うものとする。

(3) 内容の「A数と計算」の(4)のエについては、真分数と真分数との加法及びその逆の減法を取り扱うものとする。

(4) 内容の「B量と測定」の(1)のイ及び「C図形」の(1)のエについては、円周率としては 3.14

(注)円周率3は撤回された。

(3) 内容の「C図形」の(2)のアについては、見取図や展開図をかくことを取り扱うものとする。

(4) 内容の「D数量関係」の(3)については、歩合の表し方について触れるものとする。

[第6学年] *****

1 目標

- (1) 分数の乗法及び除法の意味についての理解を深め、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。
- (2) 円の面積及び角柱などの体積を求めることができるようにするとともに、速さについて理解し、求めることができるようにする。
- (3) 縮図や拡大図、対称な図形について理解し、図形についての理解を深める。
- (4) 比や比例について理解し、数量の関係の考察に関数の考えを用いることができるようにするとともに、文字を用いて式に表すことができるようにする。また、資料の散らばりを調べ統計的に考察することができるようにする。

(注)「資料のちらばり」=追加

2 内容

A 数と計算

(1) 分数の乗法及び除法の意味についての理解を深め、それらを用いることができるようにする。

ア 乗数や除数が整数や小数である場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が分数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。

を用いるが、目的に応じて3を用いて処理できるように配慮するものとする。

(5) 内容の「C図形」の(1)のウについては、三角形など多角形の角の大きさの和について調べることなどを取り扱うものとする。

(6) 内容の「D数量関係」の(2)については、歩合の意味について簡単に触れるものとする。

[第6学年] *****

1 目標

- (1) 分数の加法及び減法についての理解を深め、適切に用いることができるようにするとともに、分数の乗法及び除法の意味について理解し、それらの計算の仕方考え、適切に用いることができるようにする。
- (2) 体積の意味について理解し、簡単な立体図形の体積を求めることができるようにするとともに、速さの意味などについて理解し、それらを求めることができるようにする。
- (3) 図形を構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察し、基本的な立体図形についての理解を深めることができるようにする。
- (4) 比や比例の意味について理解し、数量の関係の考察に関数の考えを用いることができるようにする。

2 内容

A 数と計算

- (1) 整数の性質についての理解を一層深める。 (注)第5学年に移動
ア 約数、倍数について知ること。 (注)第5学年に移動
- (2) 分数についての理解を一層深めるとともに、異分母の分数の加法及び減法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。 (注)第5学年に移動
ア 一つの分数の分子及び分母に同じ数を乗除してできる分数は、元の分数と同じ大きさを表すことを理解すること。 (注)第5学年に移動
イ 分数の相等及び大小について考え、大小の比べ方をまとめること。 (注)第5学年に移動
ウ 異分母の分数の加法及び減法の計算の仕方考え、それらの計算ができること。 (注)ウ=第5学年に移動
- (3) 分数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。
ア 乗数や除数が整数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。 (注)ア=第5学年へ移動
イ 乗数や除数が整数や小数の場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が分数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。

イ 分数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

ウ 分数の乗法及び除法についても、整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解すること。 (注) 追加

(2) 小数及び分数の計算の能力を定着させ、それらを用いる能力を伸ばす。 (注) 追加

B 量と測定

(1) 身の回りにある形について、その概形をとらえ、およその面積などを求めることができるようにする。

(2) 図形の面積を計算によって求めることができるようにする。

ア 円の面積の求め方を考えること。 (注) 第5学年より移動

(3) 図形の体積を計算によって求めることができるようにする。

ア 角柱及び円柱の体積の求め方を考えること。 (注) 追加

(4) 速さについて理解し、求めることができるようにする。

(5) メートル法の単位の仕組みについて理解できるようにする。 (注) 追加

C 図形

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、平面図形についての理解を深める。

ア 縮図や拡大図について理解すること。 (注) 追加

イ 対称な図形について理解すること。 (注) 追加

ウ 分数の乗法及び除法の計算の仕方を考え、それらの計算ができること。

(4) 概数についての理解を一層深める。 (注) 第4学年へ移動

ア 目的に応じて、積、商を概数で見積もることができること。 (注) 第4学年へ移動

B 量と測定

(1) 身近にある図形について、その概形をとらえ、およその面積などを求めることができるようにする。

(2) 体積の意味について理解し、簡単な場合について、体積を求めることができるようにする。

ア 体積について単位と測定の意味を理解すること。 (注) 第5学年へ移動

イ 体積の単位(立方センチメートル(cm^3))について知ること。 (注) 第5学年へ移動

ウ 立方体及び直方体の体積の求め方を考え、それらを用いること。 (注) 第5学年へ移動

(3) 異種の二つの量の割合としてとらえられる数量について、その比べ方や表し方を理解し、それを用いることができるようにする。 (注) 第5学年へ移動

ア 単位量当たりの考えなどを用いること。 (注) 第5学年へ移動

イ 速さの意味及び表し方について理解するとともに、速さの求め方を考え、それを求めること。

C 図形

(1) 図形についての観察や構成などの活動を通して、基本的な立体図形についての理解を深めるとともに、図形の構成要素及びそれらの位置関係に着目して考察ができるようにする。

ア 立方体及び直方体について理解すること。 (注) 第4学年に移動

イ 直方体に関連して、直線や平面の平行及び垂直の関係について理解すること。

(注)イ = 第4学年に移動

ウ 三角柱、四角柱などの角柱及び円柱について知ること。 (注) 第5学年へ移動

D 数量関係

- (1) 比について理解できるようにする。
- (2) 伴って変わる二つの数量の関係を考察することができるようにする。
 - ア 比例の関係について理解すること。また、式、表、グラフを用いてその特徴を調べること。
 - イ 比例の関係を用いて、問題を解決すること。 (注) 追加
 - ウ 反比例の関係について知ること。 (注) 追加
- (3) 数量の関係を表す式についての理解を深め、式を用いることができるようにする。
 - ア 数量を表す言葉や、などの代わりに、 a, x などの文字を用いて式にしたり、文字に数を当てはめて調べたりすること。 (注) 追加
- (4) 資料の平均や散らばりを調べ、統計的に考察したり表現したりすることができるようにする。
 - ア 資料の平均について知ること。
 - イ 度数分布を表す表やグラフについて知ること。 (注) 追加
- (5) 具体的な事柄について、起こり得る場合を順序よく整理して調べることができるようにする。
(注)(5) = 追加

[算数的活動]

(注) 新設

- (1) 内容の「A数と計算」、「B量と測定」、「C図形」及び「D数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。
 - ア 分数についての計算の意味や計算の仕方を、言葉、数、式、図、数直線を用いて考え、説明する活動
 - イ 身の回りで使われている量の単位を見付けたり、それがこれまでに学習した単位とどのような関係にあるかを調べたりする活動
 - ウ 身の回りから、縮図や拡大図、対称な図形を見付ける活動
 - エ 身の回りから、比例の関係にある二つの数量を見付けたり、比例の関係を用いて問題を解決したりする活動

[用語・記号]

線対称 点対称 :

(注) 線対称、点対称 = 追加

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)については、逆数を用いて除法を乗法の計算としてみることや、整数や小数の乗法や除法を分数の場合の計算にまとめることも取り扱うものとする。

D 数量関係

- (1) 簡単な場合について、比の意味を理解できるようにする。
- (2) 伴って変わる二つの数量について、それらの関係を考察する能力を伸ばす。
 - ア 比例の意味について理解すること。また、簡単な場合について、表やグラフを用いてその特徴を調べること (注) 第5学年へ移動
- (3) 平均の意味について理解し、それを用いることができるようにする。

[用語・記号]

最大公約数 最小公倍数 約分 通分 平面 底面 側面 :

3 内容の取扱い

(2) 内容の「B量と測定」の(2)のアについては、円周率は3.14を用いるものとする。

- (1) 内容の「A数と計算」の(1)のアについては、最大公約数及び最小公倍数を形式的に求めることに偏ることなく、具体的な場面に即して取り扱う程度とする。
- (2) 内容の「A数と計算」の(2)のウについては、真分数と真分数との加法及びその逆の減法を取り扱うものとする。
- (3) 内容の「A数と計算」の(3)については、帯分数を含む計算は取り扱わないものとする。
- (4) 内容の「A数と計算」の(3)のイについては、乗数、除数が単位分数など簡単な場合を取り扱うものとする。
- (5) 内容の「B量と測定」の(2)のイについては、立方メートル(m^3)の単位についても簡単に扱うものとする。
- (6) 内容の「C図形」の(1)のアについては、適宜簡単な見取図や展開図をかくことができるよう配慮するものとする。
- (7) 内容の「C図形」の(1)のウについては、展開図、立面図及び平面図は取り扱わないものとする。
- (8) 内容の「D数量関係」の(1)については、具体的な場面を通して数量の関係を調べ、等しい比があることを理解する程度とするとともに、比の値は取り扱わないものとする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い
(以下、省略)

第3 指導計画の作成と内容の取扱い
(以下、省略)